

撒尼彝語の使役表現について¹

岩佐 一枝

1. はじめに

彝語（イ語，別名ロロ語；Yi, Lolo）は，チベット・ビルマ語派ロロ・ビルマ語支に属す言語で，中国西南部の雲南省，四川省，貴州省，広西壮族自治区，ベトナム及びラオスの北部で現在も使用されている。中国国内には8,714,393人²，ベトナムには約4,500人³，ラオスには1,400人余り⁴の彝族が居住している。

中国国内の彝語は6方言（北部，東部，南部，西部，中部，東南部）25下位方言に分けられているが，本稿で取り上げる撒尼彝語は，そのうちの東南部方言に属する。東南部方言には宜良，弥勒，華弥，文西の4下位方言があり，撒尼彝語は『彝語簡志』（1985）が彝語東南部方言宜良下位方言とするものである。

彝語は分析的言語であり，その基本語順はSOV/NAである。

撒尼彝語においては，3項動詞の場合は，S IO DO Vの語順をとる。助動詞は動詞に後置され，アスペクトを示す助詞などがその後付加される。文法関係は名詞に後置される格助詞によって示される。

本稿で扱う言語資料は，特に注記がない場合，中国雲南省石林彝族自治县五棵樹村で筆者が収集した調査データに基づいている⁵。

なお，撒尼彝語の文法に関する主な先行研究には，Vial（1909），馬（1951）がある。

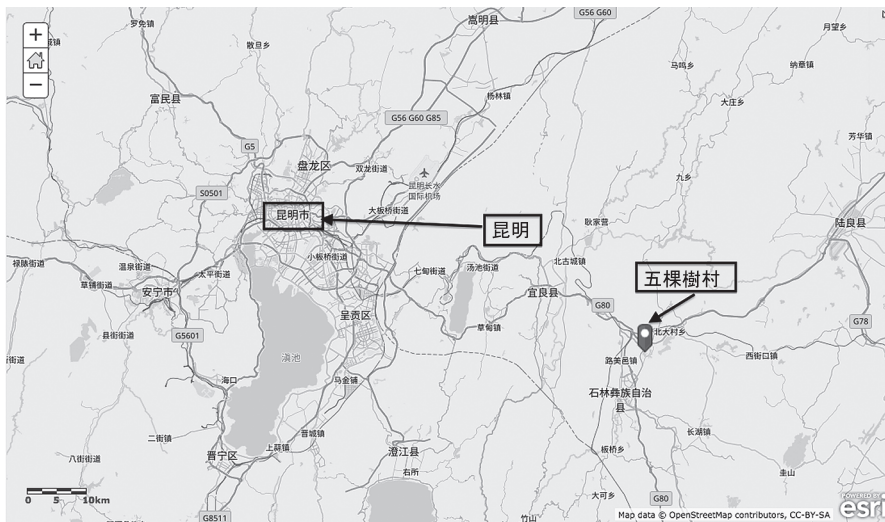
¹ 本稿は，2014年3月14日に立教大学池袋キャンパスにて行われた第3回TB + OC研究集会（池田巧教授主催）での口頭発表，並びに，2016年11月13日に中国広州市暨南大学で開催された第49回国際シナ・チベット言語学会での発表原稿に加筆したものである。また本稿執筆にあたり，両発表の際に多くの方々からいただいたご質問やご意見をもとにデータを新たに収集し，内容の修正を行った。貴重なコメントを下された参加者の皆様于心より御礼申し上げます。なお，本研究は日本学術振興会特別研究員奨励費の援助を受けている。

² 2010年の第6次人口統計による。

³ 2009年の調査結果による。“The 2009 Vietnam Population and Housing Census: Completed Results”, General Statistics Office of Vietnam: Central Population and Housing Census Steering Committee. June 2010. p. 135. Retrieved 2013-11-26.

⁴ Schliesinger（2014: p. 93）によれば，1995年の人口調査に基づく。

⁵ 言語データ提供者の一人は，生まれも育ちも五棵樹村である60代Pさん（女性）である。20年来の良き友人でもある彼女はどんなに多忙な時にも貴重な時間を割き，快く調査に協力してくれた。常に粘り強く筆者の質問に答えてくれた彼女に心から感謝申し上げます。もう一人の言語データ提供者は，石林県出身のピモ（彝族の祭司）40代のCさん（男性）である。彼も文献整理作業等，職務で多忙な中，時間を割いて筆者の調査に根気強くお付き合い下さった。ここに心より御礼申し上げます。また，これまで長年に渡り筆者を温かく迎え，撒尼彝語を教えてくれた五棵樹村のみなさんに，この場を借りて心から御礼申し上げます。本稿も五棵樹村で言語調査を行いつつ，みなさんのご協力を頂戴することで完成させることができました。

地図1 五棵樹村広域図⁶

地図2 五棵樹村狭域図

2. 撒尼彝語の使役表現パターン

撒尼彝語の使役表現には、語彙的使役、形態的使役、迂言的使役の3タイプがある。

⁶ 地図1及び2は、ArcGIS (<http://www.arcgis.com/home/index.html>) を用いて作成した。

2.1. 語彙的使役

以下、語彙的使役の例を挙げる。

2.1.1. 自他同形型

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------|
| 1) 自動詞：le ³³
沸騰する | 他動詞：le ³³
沸騰させる |
| 2) 自動詞：phu ³³
開く | 他動詞：phu ³³
開ける |

2.1.2. 補充型⁷

- | | |
|--|---|
| 3) 自動詞：dli ²¹
折れる | 他動詞：ɬi ⁵⁵ / tshɿ ⁴⁴
折る |
| 4) 自動詞：ʂi ³³
死ぬ ⁸ | 他動詞：xe ²¹
殺す |
| 5) 自動詞：so ⁴⁴
学ぶ | 他動詞：mo ⁵⁵
教える |

2.1.3. 両極型⁹

- | | |
|---|--|
| 6) 自動詞：ho ⁴⁴ pe ³³
混ざる | 他動詞：vi ³³ ho ⁴⁴
混ぜる |
|---|--|

⁷ 3), 4) は『彝漢簡明詞典』(1984)より、5) は『藏緬語族語言詞彙』(1992)より引用。また、以下の様な例もある。a) 及び b) は『藏緬語族語言詞彙』(1992)より、c) は『彝漢簡明詞典』(1984)より引用。

a) 自動詞：ld ² 倒れる	他動詞：le ⁴⁴ 倒す
b) 自動詞：dx ²¹ 燃える、火がつく	他動詞：tx ⁵⁵ 燃やす、火をつける
c) 自動詞：vi ³¹ 着る	他動詞：fi ³⁵ 着せる

現代撒尼彝語の語彙形式のみから分類するならば、これらのペアは補充型と看做すこともできよう。しかしながら、最終的な分類には更に検討が必要と判断し、結論は保留とした。ちなみに、上記3例に共通して認められる初頭子音の声の対立(側面音については有声音と摩擦音の対立であるが)、並びに低調から高調への声調変化は、PTB *s- のような使役接頭辞の存在を示唆しているように思われる。例えば、彝語の特徴的な歴史的音韻変化の一つに、音節初頭の子音結合の単子音化というものがある。この変化の過程において、自動詞に前置され他動詞を形成していた *s- が後続する子音を無声化し、且つ調値の変化も引き起こしたと推測することができる。ただ、この点についてはさらなるデータの収集と分析が必要である。

⁸ 音声表記では [s⁵⁵] となるが、原文ママ。同じ理由で、『藏緬語族語言詞彙』からの引用も原文ママ。以下本稿では、そり舌音に後続する [ɲ] は /ɲ/ で表記する。また、齒茎音に後続する [ɲ] も以下 /ɲ/ と表記する。

⁹ Haspelmath (1993: 91) の以下の記述に基づく。... In **equipollent** alternations, both (= inchoative/causative verb pairs) are derived from the same stem which expresses the basic situation, by means of different affixes..., different auxiliary verb..., or different stem modifications...

なお、両極型の例 6) は『彝漢簡明詞典』(1984)より引用。

2.2. 形態的使役

撒尼彝語においては、形態的使役はほとんどが自動詞の使役化型で、使役的色彩を動詞に与える要素は、撒尼彝語の通常の語順とは異なり、主動詞に先行する。また、後述する 14) のように反使役化型を示す例も少数ながら存在する。

本稿では、 $dæ^{11}$, $tçhr^{33}$, ky^{33}/ku^{33} を前置する語彙は、その形式から便宜上形態的使役と分類したが、現代撒尼彝語においてはいずれも生産的とはいえず、これらを伴った例はすでに語彙化していると判断される。よって、今後の研究の進展によって、語彙的使役に分類する可能性もある。

2.2.1. $dæ^{11}$ 付加タイプ¹⁰

[$dæ^{11}$] は、「打つ、叩く」という意味の動詞であるが、以下の例のように、自動詞に前置して、他動詞化する働きをもつ。

- | | |
|------------------------------|-----------------------------------|
| 7) 自動詞： br^{11}
散り散りになる | 他動詞： $dæ^{11} br^{11}$
バラバラにする |
| 8) 自動詞： $ɬɣ^{44}$
穴が開く | 他動詞： $dæ^{11} ɬɣ^{33}$
穴を開ける |

2.2.2. $tçhr^{33}$ 付加タイプ¹¹

[$tçhr^{33}$] は、「人を派遣する、頼む（中国語の「派」）」という意味の動詞である。これも [$dæ^{11}$] と同様に、自動詞に前置され、それを他動詞化させる。黄（1992）によれば、[$tçhr^{33}$] は、上述の中国語の「派」に加え、「使」‘to make, cause’の項目にも記述されている¹²。

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 9) 自動詞： qu^2
戻る | 他動詞： $tçhr^{33} qu^2$
戻す |
|----------------------|-----------------------------|

2.2.3. ky^{33}/ku^{33} 付加タイプ

[ky^{33}/ku^{33}] は、本来「作る、創造する」という意味の動詞であるが、自動詞に前置すると、それを他動詞化する場合がある。例 10)–13) を参照。例 14) は、反使役化型と考えられるが、便宜上本章で扱った。

¹⁰ 7), 8) ともに『藏緬語族語言詞彙』(1992) より引用。

¹¹ 9) は『藏緬語族語言詞彙』(1992) より引用。

¹² 2016年11月13日の国際シナ・チベット語学会での発表後、Matisoff先生より、撒尼彝語の [$tçhr^{33}$] とラフ語の ci [ts^{33}] (中国語の「使」に相当) が同源語であるご教示いただいた。ここに感謝申し上げる。

¹³ 母音の表記の差異は引用した資料の表記に違いによる。各資料の語彙形式及び意味を比較検討した結果、本稿では同じ形態素として扱う。なお、10)–13) までは『藏緬語族語言詞彙』(1992) からの引用。14) は『彝漢簡明詞典』(1984) より引用。

また、[kʏ³³/ku³³]は一部の形容詞（主に性質形容詞）にも前置され、これを動詞化する働きを持つ¹⁴。

Vial (1909: p. 66) は、現代撒尼彝語の[kʏ³³/ku³³]に相当すると推測される kou̯ という動詞について、漠然と「作る」という意味を持つ類義語の mou̯ に比べて、特に「何かを作る、制作する」といった意味を持つ、と述べている¹⁵。

- | | |
|---|--|
| 10) 自動詞：la ²
倒れる | 他動詞：kʏ ³³ la ²
倒す |
| 11) 自動詞：qæ ⁴⁴ qu ²
曲がる | 他動詞：kʏ ³³ qæ ⁴⁴ qu ²
曲げる |
| 12) 自動詞：tʂo ⁴⁴
ぐるぐる回る | 他動詞：kʏ ³³ tʂo ⁴⁴
回す |
| 13) 自動詞：ʂi ³³
死ぬ | 他動詞：kʏ ³³ ʂi ³³
死なせる |

以下は、この kʏ³³/ku³³ が反使役の働きをしていると考えられる例である。

- | | |
|---|--------------------------------|
| 14) 自動詞：ku ³³ tʂe ⁵⁵
煮える、炊ける | 他動詞：tʂe ⁵⁵
煮る、炊く |
|---|--------------------------------|

2.3. 迂言的使役

迂言的使役は主に間接使役を表す。基本構造は以下の通り。

使役者 被使役者 + ηo⁵⁵ (欲する, 必要がある) + VP
(ηo⁵⁵) qe⁵⁵ (呼ぶ, 頼む)
(ηo⁵⁵) tʂhi³³ (依頼する, 派遣する)
zʌ⁵⁵ (~させる, ~するよう頼む)¹⁶

¹⁴ kʏ³³/ku³³ がある種の形容詞の前に現れ、動詞を形成している例を挙げる。いずれも『彝漢簡明詞典』（1984）より引用。

a) 形容詞：bo³³ 動詞：ku³³ bo³³
裕福な 裕福になる、富む

b) 形容詞：dle³³ 動詞：ku³³ dle³³
悪い 荒廃する、荒廃させる、台無しにする

¹⁵ Le sens primitive de mou̯ est: faire, et il a pour synonyme : kou̯, ils se prennent très facilement l'un pour l'autre; cependant Mou̯ a plutôt le sens vague que nous donnons au verbe—faire—... 中略 ... tandis que kou̯ a le sens plus special de—faire, fabriquer quelque chose—...

¹⁶ 中国語の「让（～させる）」の借用とも考えられるが、現段階では詳細不明。

上記 $\eta\text{o}^{55}/\text{q}\epsilon^{55}/\text{t}\check{\text{c}}\text{h}\text{r}^{33}/\text{z}\Lambda^{55}$ のうち、最も広く用いられるのは $\text{q}\epsilon^{55}$ である。容認使役にも強制使役にも用いられる。

(ηo^{55}) $\text{t}\check{\text{c}}\text{h}\text{r}^{33}$ 及び $\text{z}\Lambda^{55}$ を用いると丁寧な表現になり、特に人に何かを依頼する際に用いられる。

ηo^{55} については、使役の強制の度合いやその機能など、今後さらなる調査が必要である。よって、稿を改めて論じたい¹⁷。

また、これら以外にも、表現する内容によって vr^{33} 「(手に) 取る」、 mo^{55} 「言いつける、言い聞かせる」などが使用される¹⁸。

2.3.1. 間接使役

以下に関節使役の例を挙げる。

- 15) a. $\eta\epsilon^{33}$ khr^{33} $\text{q}\epsilon^{55}/\eta\text{o}^{55}/\eta\text{o}^{55}$ $\text{q}\epsilon^{55}/\text{z}\Lambda^{55}$ $\text{q}\epsilon^{33}$ be^{21} $\text{t}\check{\text{c}}\text{r}^{33}$ zi^{33}
 1sg 3sg call/ want/ want to call/ make PART Beijing go

私は彼を北京へ行かせる。

- b. $\eta\epsilon^{33}$ khr^{33} $\text{q}\epsilon^{55}/\eta\text{o}^{55}/\eta\text{o}^{55}$ $\text{q}\epsilon^{55}/\text{z}\Lambda^{55}$ $\text{q}\epsilon^{33}$ be^{21} $\text{t}\check{\text{c}}\text{r}^{33}$ $\text{m}\epsilon^{21}$ zi^{33}
 1sg 3sg call/ want/ want to call/ make PART Beijing NEG go

私は彼を北京へ行かせない。

- 16) $\eta\epsilon^{33}$ lr^{33} $\text{t}\check{\text{s}}\text{h}\text{u}^{21}$ ze^{21} $\text{q}\epsilon^{55}$ $\text{t}\check{\text{c}}\epsilon^{33}$ do^{33} $\text{d}\text{z}\text{i}^{21}$ $\text{x}\epsilon^{33}$
 1sg PART puppy call run away PERF

私は子犬を逃した。

16) のように、 $\text{q}\epsilon^{55}$ は、被使役者が人間でなくとも用いることができる¹⁹。

¹⁷ ηo^{55} は「欲する、必要がある」という意味を持ち、直接目的語を取る動詞としても、動詞の後に置かれる助動詞としても機能する。また、行為の対象を示す「～に対して/～を」という助詞としての機能も持つが、その場合にもやはり欲求・必要性という意味を多分に含んでいるようである。このように、助詞として用いられる際にも話者の強い要求を示すことから、動詞 ηo^{55} の文法化が進んだ結果、助詞としての機能が生じたと推測される。しかしながら、現段階ではその語源的関連性など詳細不明のため、本稿ではこれ以上論じない。ただし、 ηo^{55} が撒尼彝語の使役表現中に出現する際、特に $\text{q}\epsilon^{55}$ 及び $\text{t}\check{\text{c}}\text{h}\text{r}^{33}$ とともに現れる場合には、 ηo^{55} の現れる語順が通常助動詞として現れる時と異なっていることから、被使役者、つまり実際に行為を行う者を示すマーカーとして機能していると判断してよいだろう。

¹⁸ 以下の例文を参照されたい。

ア) $\eta\epsilon^{33}$ r^{33} $\text{m}\epsilon^{33}$ lr^{33} $\eta\epsilon^{33}$ $\text{v}\text{r}^{33}/\text{m}\text{o}^{55}$ $\text{q}\epsilon^{33}$ khr^{33} m^{33} $\text{k}\epsilon^{33}$
 my mother PART 1sg take/exhort 3sg help

母は私に彼を手伝わせる。

イ) $\eta\epsilon^{33}$ r^{33} $\text{m}\epsilon^{33}$ lr^{33} $\eta\epsilon^{33}$ $\text{v}\text{r}^{33}/\text{m}\text{o}^{55}$ $\text{q}\epsilon^{33}$ khr^{33} $\text{th}\Lambda^{21}$ m^{33} $\text{k}\epsilon^{33}$
 my mother PART 1sg take/exhort 3sg PROH help

母は私に彼を手伝わせない。

ηo^{33} 同様 vr^{33} も文法化の過程にあり、動詞としてよりも多くの場合対格・与格標識として機能していると推察する。特に使役表現においては、被使役者 = VP で提示される行為の実行者を示すマーカーとして機能していると考えられる。

¹⁹ 16) では、 lr^{33} を用いなくとも非文ではないが、話者によってはこれを多用する者もいる。

- 17) a. $r^{55} \eta^{33}$ $\eta e^{33} me^{33}$ ηe^{33} qe^{55} $ly^{31} thu^{31}$ zi^{33} $qe^{33} zi^{33}$
 yesterday my mother lsg call go out play
 昨日母は私を遊びに行かせた。
- b. $r^{55} \eta^{33}$ $\eta e^{33} me^{33}$ ηe^{33} qe^{55} $ly^{31} thu^{31}$ zi^{33} $qe^{33} zi^{33}$
 yesterday my mother lsg call go out play
 me^{21} di^{31}
 NEG may, can
 昨日母は私を遊びに行かせなかった²⁰。

2.3.2. 二重使役

2.3.2.1. 直接使役+間接使役パターン

以下に間接使役と直接使役からなる二重使役の例を示す。

- 18)²¹ a. ηe^{33} $khri^{33}$ qe^{55} $zi^{21} \eta e^{33}$ ηe^{33} zi^{33}
 lsg 3sg call hot water boil go
 私は彼に水を沸かしに行かせる。(沸かしに行くように言う。)
- b. ηe^{33} $khri^{33}$ ηo^{55} $zi^{21} \eta e^{33}$ ηe^{33} zi^{33}
 lsg 3sg want hot water boil go
 私は彼に水を沸かしに行かせる。
- c. ηe^{33} $khri^{33}$ $tchi^{33}$ $zi^{21} \eta e^{33}$ ηe^{33} zi^{33}
 lsg 3sg ask hot water boil go
 私は彼に水を沸かしに行くよう頼む。
- d. ηe^{33} $khri^{33}$ $\eta o^{55} tchi^{33}$ $zi^{21} \eta e^{33}$ ηe^{33} zo^{33}
 lsg 3sg want to ask hot water boil need
 私は彼に水を沸かさよう頼まなければならない。
- e. ηe^{33} $khri^{33}$ qe^{55} $zi^{21} \eta e^{33}$ ηe^{33} zo^{33}
 lsg 3sg call hot water boil need
 私は彼に水を沸かさせなければならない。

²⁰ 17) b. の [di^{31}] という語は、その意味するところも使われ方も中国語の「可以」によく通じ、許可や容認を示す。

²¹ c, d は a, b よりも丁寧な言い方である。また、 $\eta o^{55} tchi^{33}$ や $tchi^{33}$ を用いると、撒尼彝語話者にとっては若干漢語的表現に聞こえるようである。

- f. nr³³ khɿ³³ qɛ⁵⁵ zi²¹ ɬe³³ ɬe³³ zo³³ zo³³
 2sg 3sg call hot water boil need need

あなたは彼に水を沸かさせる必要があるのか？

- g. ŋe³³ khɿ³³ qɛ⁵⁵ zi²¹ ɬe³³ ɬe³³ me²¹ zo³³
 1sg 3sg call hot water boil NEG need

私は彼に水を沸かさせる必要はない。

- 19) a. si⁵⁵ pe³³ phi⁵⁵ xe³³
 bowl break PERF

茶碗が割れた。

- b. khɿ³³ si⁵⁵ pe³³ phi⁵⁵ xe³³
 3sg bowl break PERF

彼は茶碗を割った。

- c. ŋe³³ li³³ khɿ³³ tɕhi³³ qe³³ si⁵⁵ pe³³ phi⁵⁵ xe³³
 1sg PAR 3sg ask PART bowl break PERF

私は彼に茶碗を割らせた²²。(依頼の度合いが強い表現)²³

- d. ŋe³³ khɿ³³ qɛ⁵⁵ si⁵⁵ pe³³ thɿ²¹ phi⁵⁵ xe³³
 1sg 3sg call bowl PROH break PERF

私は彼に茶碗を割らせなかった²⁴。

- 20) a. ŋe³³ khɿ³³ m̩³³ ke³³
 1sg 3sg help

私は彼を手伝う。

- b. ŋe³³ i³³ me³³ li³³ ŋe³³ qɛ⁵⁵ khɿ³³ e⁵⁵ m̩³³ ke³³
 my mother PART 1sg call 3sg PART help

母は私に彼を手伝わせる。

²² 19) c. の qe³³ は、2つの動作をつなぐ助詞。

²³ tɕhi³³ が用いられている c の例文の場合は、割るのを躊躇している相手に対して、「(大丈夫だから) 割ってくれ。」と依頼しているニュアンスがある。ŋo⁵⁵/qe⁵⁵/za⁵⁵ も出現可能であるが、依頼の度合いは低いと思われる。

²⁴ ŋo⁵⁵/tɕhi³³/za⁵⁵ も出現可能。

- c. ηe^{33} i^{33} me^{33} $lɪ^{33}$ ηe^{33} qe^{55} $khɪ^{33}$ e^{55} $m̩^{33}$ ke^{33}
 my mother PART 1sg call 3sg PART help
 me^{21} zo^{33}
 NEG need

母は私に彼を手伝わせない。

2.3.2.2. 間接使役+間接使役パターン

次に、間接使役と間接使役による二重使役の例を挙げる。

- 21) a. ηe^{33} ($lɪ^{33}$) $khɪ^{33}$ qe^{55} ni^{21} do^{21} be^{33}
 1sg (PART) 3sg call Sani language speak
 私は彼に撒尼語を話させる²⁵。
- b. ηe^{33} $khɪ^{33}$ qe^{55} ni^{21} do^{21} $th\Lambda^{21}/me^{21}$ be^{33}
 1sg 3sg call Sani language PROH/NEG speak
 私は彼に撒尼語を話させない。
- c. ηe^{33} i^{33} me^{33} $lɪ^{33}$ ηe^{33} $\eta o^{55}/t\check{c}hɪ^{33}$ qe^{33}/qe^{55} $khɪ^{33}$
 my mother PART 1sg want/ask PART/call 3sg
 ni^{21} do^{21} be^{33}
 Sani language speak
 母は私をして（私に命じて）彼に撒尼語を話させる。
- d. ηe^{33} i^{33} me^{33} $lɪ^{33}$ ηe^{33} $\eta o^{55}/qe^{55}$ $khɪ^{33}$ ni^{21} do^{21}
 my mother PART 1sg want/call 3sg Sani language
 me^{21} be^{33}
 NEG speak
 母は私をして（私に命じて）彼に撒尼語を話させない。
- e. ηe^{33} i^{33} me^{33} $lɪ^{33}$ ηe^{33} qe^{55} $khɪ^{33}$ qe^{55} $\check{c}e^{33}$ do^{21}
 my mother PART 1sg call 3sg call Chinese
 me^{21} be^{33}
 NEG speak
 母は私をして（私に命じて）彼に漢語を話させない。

²⁵ 例えば、自分が撒尼彝語を子どもに教えて、話せるようにするといった場合は、次のように言う。

ηe^{33} $lɪ^{33}$ ni^{21} do^{21} mo^{55} Λ^{21} qe^{33} ze^{21} be^{33}
 1sg PART Sani Language to teach child to speak
 私が子どもに撒尼彝語を（教えて）話させる。

- 22) a. ηe^{33} $khɪ^{33}$ qe^{55} $\zeta\tilde{\Lambda}^{33}$ $phi\tilde{e}^{33}$ ne^{33}
 1sg 3sg call picture look, see
 私は彼に写真を見せる²⁶。
- b. ηe^{33} i^{33} me^{33} li^{33} ηe^{33} $\eta o^{55}/qe^{55}$ $khɪ^{33}$ qe^{55} $\zeta\tilde{\Lambda}^{33}$ $phi\tilde{e}^{33}$
 my mother PART 1sg want/ call 3sg call picture
 ne^{33}
 look, see
 母は私をして（私に命じて）彼に写真を見させる。
- c. ηe^{33} i^{33} me^{33} li^{33} ηe^{33} $\eta o^{55}/qe^{55}$ $khɪ^{33}$ qe^{55} $\zeta\tilde{\Lambda}^{33}$ $phi\tilde{e}^{33}$
 my mother PART 1sg want/ call 3sg call picture
 $\eta\Lambda^{21}$ ne^{33} me^{21} di^{33}
 look, see NEG may
 母は私をして（私に命じて）彼に写真を見させない。
- 23) a. ηe^{33} ni^{33} ηo^{55} ζo^{33} be^{33} vi^{33} qe^{33} Λ^{33} ti^{55} ze^{21} fi^{55}
 1sg 2sg want clothes take PART very little son dress
 私はあなたに私の息子に服を着せて欲しい。
- b. ηe^{33} ni^{33} ηo^{55} ζo^{33} be^{33} vi^{33} qe^{33} Λ^{33} ti^{55} ze^{21}
 1sg 2sg want clothes take PART very little son
 $th\Lambda^{21}/me^{21}$ fi^{55}
 PROH/ NEG dress
 私はあなたに私の息子に服を着せて欲しくない。

以下第3章では、撒尼彝語と他の彝語方言の使役表現を比較し、その特徴や差異について述べる。

2.3.3. 被使役者が主題化される場合

迂言的使役において、被使役者が主題化される場合がある。二重使役において、通常使役者から「第三者にある行為をするよう命じられる者」が主題化される。言い換えれば、二重使役表現中最右の被使役者はほとんど主題化されることがない²⁷。この時、主題化された被使役者は文頭に置かれ、使役を示す $\eta o^{55}/t\zeta hr^{33}/z\Lambda^{55}$ は出現せず、無標となる。また、この時の構造が同方言の受身

²⁶ ne^{33} は文末においては $[ne^{31}]$ のように、やや緊喉を帯び、且つ下降調で発音される。

²⁷ 現段階では、筆者のデータには該当例がない。ただし、今後の調査により、最右の使役者が主題化されるような例が見つかる可能性もある。今後の調査課題としたい。

的表現の構造とほぼ等しくなるということも、併せて記しておく。この点に関しては今後更に調査し、改めて論じたい。

- 20) b. ηe^{33} i^{33} me^{33} $lɿ^{33}$ ηe^{33} qe^{55} $khɿ^{33}$ e^{55} m^{33} ke^{33}
 my mother PART 1sg call 3sg PART help

母は私に彼を手伝わせる。

- b'. ηe^{33} ηe^{33} i^{33} me^{33} $lɿ^{33}$ $khɿ^{33}$ e^{55} m^{33} ke^{33}
 1sg my mother PART 3sg PART help

母は私に彼を手伝わせる。(私は母によって彼を手伝わされた。)

3. 他の彝語方言の使役表現との比較²⁸

3.1. 東南部方言弥勒下位方言（阿細彝語）²⁹

基本構造

使役者 被使役者 + dze^{33} (行為者マーカー) + VP + mo^{33} (~させる)

阿細彝語では、被使役者は通常与格標識として使用される dze^{33} で示す。また、VP の後には、本来「作る」という意味の使役動詞 mo^{33} が義務的に置かれる。以下の例文を参照されたい。

- 24) $kɿ^{33}$ ηo^{33} dze^{33} $v\Lambda^{33}$ $t\Lambda^{33}$ li^{33} mo^{33}
 3sg 1sg AGT there go make

彼は私をそこへ行かせた。

- 25) ηo^{33} mo^{33} $s\eta^{33}$ vu^{33} ηo^{33} dze^{33} zi^{33} tse^{33} Λ^{11} li^{33} mo^{33}
 my mother night 1sg AGT outside NEG go make

母は私を夜外出させない。

3.2. 東南部方言文西下位方言（阿扎彝語）³⁰

基本構造

使役者 被使役者 + le^{33} (行為者マーカー) + VP + le^{55} (~させる)

阿扎彝語では被使役者は、通常与格標識として使用される le^{33} で示す。また、

²⁸ 特に注記がない場合、例文は全て筆者自身のデータからの引用である。

²⁹ 本稿では以下阿細彝語と呼ぶ。

³⁰ 本稿では以下阿扎彝語と呼ぶ。

VPの後には、本来「作る」という意味の使役動詞 le^{55} が義務的に置かれる。以下の例文を参照されたい。

- 26) $\eta\alpha^{33}$ mo^{33} mi^{42} $t\chi i^{42}$ $\eta\alpha^{33}$ le^{33} ma^{31} $t\chi^{31}$ le^{55}
 my mother night 1sg AGT NEG go make
 母は夜私を外出させない。

- 27) ku^{33} le^{33} pe^{33} le^{55}
 3sg.DAT AGT speak make
 彼に話させなさい。

3.3. 南部方言石屏下位方言（尼蘇彝語）³¹

基本構造

使役者 被使役者 + la^{33} (行為者マーカー) / $th\Lambda^{33}$ (～させる)
 + VP + bi^{21} (与える)

尼蘇彝語では、被使役者は通常与格標識として使用される la^{33} 、あるいは「～(に) させる」という意味の動詞 $th\Lambda^{33}$ で示される。また、VPの後には、本来「与える」という意味の使役動詞 bi^{21} が義務的に置かれる。以下の例文を参照されたい。

- 28) su^{33} $k\chi^{55}$ $p\chi^{21}$ ηo^{21} $th\Lambda^{21}$ ηi^{55} bi^{21}
 book that CL 1sg let read give
 私にあの本を読ませてください。

- 29) ηo^{33} mo^{21} ηo^{21} mu^{33} $t\chi i^{21}$ ma^{21} du^{33} le^{21} bi^{21}
 my mother 1sg night NEG go out give
 母は私を夜外出させない。

- 30) a^{55} $p\chi^{21}$ $z\chi^{21}$ a^{33} lu^{21} e^{33} $z\chi^{21}$ $dz\chi^{33}$, a^{21} so^{33} la^{33} $z\chi^{21}$
 Aben go Alu also go say, who AGT go
 to^{21} bi^{21}
 ahead, before give

アーペンもアールーも行きたいそうだ、あなたはどちらを先に行かせるの？³²

³¹ [彝語簡志] (1985) の分類による。本稿では以下ニ蘇彝語と呼ぶ。

³² 例文 30) は、李生福 (1996: p. 196) より引用。

3.4. 撒尼彝語の使役表現の特徴

上述の内容を踏まえ、彝語諸方言と撒尼彝語を比較すると、撒尼彝語の使役表現の特徴は以下のようにまとめられる。

1. 他の彝語方言では使役者は無標であるが、撒尼彝語では li³³ という使役者マーカーが現れることが多い。この li³³ は、受動的表現においては行為者を示すマーカーとして義務的に現れる。一方、使役表現においては、被使役者によってなされる行為のそもそもの発生源、つまり、「おおもとの行為者」として、li³³ で明示化される傾向が高いと考える。
2. 被使役者は、ŋo⁵⁵/qe⁵⁵/tɕhi³³/zɿ⁵⁵ といった、一部文法化していると考えられる動詞が義務的に後続し、被使役者であることを明示している。
3. 他の彝語方言と異なり、撒尼彝語の迂言的使役表現では VP の後に使役動詞が現れない。
4. 文中において、使役者は通常最左におかれ、最右に現れるものが被使役者＝実際の行為者となる。
5. 間接使役と間接使役からなる二重使役において、第一の被使役者が主題化され最左に置かれる場合、上記 4 とは異なる語順を取り、且つ無標となる。

4. 結語

撒尼彝語に関する先行研究は少なくないが、使役表現についてはこれまであまり詳細な報告がなされてこなかった。そこで本稿では、先行研究のデータや記述に加え、筆者の言語データを整理・分析し、撒尼彝語の使役表現についての初歩的な考察を試みた。これにより、基本的な撒尼彝語の使役表現のパターンを示し、他の彝語方言との比較によりその特徴を示すことができた。

しかしながら、語彙的使役に関するデータはほとんどが二次資料からの引用であったため、今後の課題として、それらの実際の使用状況を現地調査で検証し、同時に語彙の収集も改めて行いたい。

略号

AGT: 行為者	CL: 類別詞	DAT: 与格	NEG: 否定
PART: 助詞	PERF: 完了	PROH: 禁止	1sg: 一人称単数
2sg: 二人称単数	3sg: 三人称単数		

参考文献

中国語文献

- 陳士林他. 1985. 『彝語簡志』北京：民族出版社。
 戴慶厦他. 1992. 『藏緬語族語言詞彙』中央民族學院出版社。
 何德宗. 1988. 『阿細文語法』（孔版）
 李生福. 1996. 『彝語南部方言研究』北京：民族出版社。
 馬學良. 1951. 『撒尼彝語研究』上海：商務印書館。
 普璋開他編著. 2005. 『滇南彝文字典』昆明：雲南民族出版社。
 武自立, 紀嘉發編著. 2011. 『漢彝簡明詞典』成都：四川民族出版社。
 袁家驊. 1953. 『阿細民歌及其語言』北京：中國科學院。
 雲南省路南彝族自治州文史研究室編. 1984. 『彝漢簡明詞典』昆明：雲南民族出版社。
 藏緬語語音和詞彙編寫組. 1991. 『藏緬語語音和詞彙』北京：中國社會科學出版社。

中国語以外の文献

- Aikhenvald, Alexandra Y. 2015. *The Art of Grammar*. Oxford University Press.
 Bradley, David. 2002. “The subgrouping of Tibeto-Burman”, *Medieval Tibeto-Burman Languages*. Leiden: Brill. 73–112.
 Comrie, Bernard. 1976. “The syntax of causative constructions: cross-language similarities and divergences”. In Shibatani, Masayoshi (ed.), *The Grammar of Causative Constructions*, 261–312. New York: Academic Press.
 ———. 2006. Transitivity pairs, markedness, and diachronic stability. *Linguistics* 44(2): 303–318.
 Dixon, R. M. W. and Aikhenvald, Alexandra Y. 2000. *Changing valency Case studies in transitivity*. Cambridge University Press.
 General Statistics Office of Vietnam: Central Population and Housing Census Steering Committee. 2010. “The 2009 Vietnam Population and Housing Census: Completed Results”. p. 135. Retrieved 2013-11-26.
 Haspelmath, Martin. 1993. More on the typology of inchoative/causative verb alternations. In Bernard Comrie & Maria Polinsky (eds.), *Causatives and transitivity*. Amsterdam: Benjamins. 87–120.
 Hayashi, Norihiko (林範彦). 2009. 『チノ語文法（悠楽方言）の記述研究』。神戸市外国語大学研究叢書第 43 冊。神戸市外国語大学外国語研究所。
 Iwasa, Kazue. 2004. Axi and Azha—Descriptive, Comparative, and Sociolinguistic Analyses of Two Lolo Dialects of China—. Ph.D dissertation, Kobe City University of Foreign studies.
 Lama, Ziwo Qiu-Fuyuan. 2012. Subgrouping of Nisoic (Yi) Languages: A Study from the Perspectives of Shared Innovation and Phylogenetic Estimation. Ph.D. dissertation, University of Texas at Arlington.
 Liétard, Alfred. 1909a. “Notions de grammaire lolo (dialecte a-hi)”. Hanoi: *Bulltin de l'Ecole Française d'Extrême-Orient* 9.2. pp. 285–314.
 ———. 1909b. “Notes sur les dialects lolo”, Hanoi: *Bulltin de l'Ecole Française d'Extrême-Orient* 9.3. pp. 549–572.
 ———. 1911. “Essai de dictionnaire lo-lo français, dialecte a-hi”. Leiden: *T'oung Pao* 2.12. pp. 1–37, 123–156, 316–346, 544–558.
 ———. 1912. “Vocabulaire français lolo, dialecte a-hi”. Leiden: *T'oung Pao* 2.13. pp. 1–42.
 Maruta, Tadao (丸田忠雄) and Suga, Kazuyoshi (須賀一好). 2000. 『日英語の自他交替』。東京：ひつじ書房。
 Matisoff, James A. (with Stephen P. Barow and John B. Lowe). 1996. Languages and Dialects of Tibeto-Burman. (STEDT Monograph Series, No. 2) Berkeley: Center for Southeast Asia Studies, University of California, Berkeley.
 ———. 2006. *English-Lahu Lexicon*. University of California Press.
 Sasaki, Yoshihito (佐々木勲人). 2002. 「中国語における使役と受益—比較方言文法の観点から—」。筑波大学現代言語学研究会編『事象と言語形式』。東京：三修社。pp. 177–197。
 Schliesinger, Joachim. 2003 (digitized in 2014). *Ethnic Groups of Laos volume 4 Profile of Sino-Tibetan-Speaking Peoples*. E-published by BooksMango, Thailand.
 Sun, Hongkai. 1999. On the Category of Causative verbs in Tibeto-Burman Languages. *Linguistics of Tibeto-Burman Area. Volume 22.1*. pp. 183–199.
 Vial, Paul. 1909. *Dictionnaire Français-Lolo dialecte gni*. Hong Kong.